

令和元年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 活動状況報告書

秩父産材を使用した西洋ミツバチの養蜂巣箱、継箱の製造(H29)

団体名：第3のみつ研究会



事業の目的・内容

養蜂は農業においてポリネーション(受粉)としての需要が多く、蜂蜜増産のためにも蜂群を増やす必要があります。このために蜂箱を製造することで、蜂群を増やすことができます。秩父産のサワラ材、スギ材や間伐材で西洋ミツバチの蜂箱を製造することで秩父地区の間伐材、放置された間伐残材を整理しながら、製材した板で、製作した西洋ミツバチの蜂箱は蜂群の増産に役立ち、蜂箱の組立キット商品を全国へ販売することで秩父産サワラ材のブランド化を高め秩父地域の経済効果が高まる。



今までの活動状況



平成 29 年度に 3 箱の西洋ミツバチの二段の継箱のセットをサワラ材で製作しました。サワラは水に強く屋外で十分活用できている。

しかし、2 年以上屋外で使用することで問題点も発生しています。3 箱は同じ設計で製造しましたが伸び縮が発生し蓋が合わなくなったりしています。製作者と微調整をしながら釘の打ち方など工夫する余地がある。



これからの活動・行事

今年の 3 群を越冬させることで、蜂群を増やすための女王蜂づくりを準備していく。蜂群の育成により蜂群を増やしながらかつじん産サワラ材の蜂箱に改良を重ねより良い箱作りを行う。